

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400106		
法人名	株式会社愛誠会		
事業所名	はなまるホーム光風台		
所在地	千葉県市原市光風台4-377		
自己評価作成日	平成23年2月26日	評価結果市町村受理日	平成23年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4労働福祉センター5階		
訪問調査日	平成23年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季に応じたレクリエーション活動の実施。また訪問看護ステーションとの医療連携体制により、医療と介護の連携が確保され、健康異常の早期発見により、末永く健康で暮らしていただけるように支援していきます。
食前の口腔体操や、散歩、軽体操により、身体能力の低下を防いでいます。
また、各種レクリエーション活動により、日常生活の活性化を図り、認知症の進行を防ぎます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

はなまる光風台は今年の2月より新しい管理者が着任し新体制で臨んでいる。初めての運営推進会議を4月に予定し、参加者への通知や会議の内容の検討など開催に向け準備中である。また、昨年は入居者の「ディズニーランドに行ってみよう」との希望を全職員で検討し、家族、ボランティアの協力を得てホームの旅行として実現した。その時の入居者の嬉しいような写真が飾られていた。管理者のホーム運営に対する熱意は高く、また職員間のコミュニケーションも良好であり、全職員一丸となった質の高いケアサービスが期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の理解を全職員に周知して頂く様に努力しています。	法人の理念をベースにしたホーム独自の理念「利用者様も職員も笑顔な生活を」を作った玄関にも掲示しているが、全職員への周知が不十分と思われる。	2月に現施設長が赴任し新たな体制でスタートした。ホームの理念と考え方を機会がある度に全職員と話し合い、実践に繋げることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の防災訓練に参加したり、交流を深める努力をしています。	自治会に加入し地域との交流に努めている。小学校の運動会を見学したり、ホームのイベント時にはボランティアによる尺八演奏などの受け入れも行っている。時には近隣農家や家族から採れたての野菜が届くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症でお困りの方の、入居相談を通じて、支援方法のアドバイスをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、前任の施設長の時に、実施されていない現状があります。今後概ね2ヶ月に一度運営推進会議を実施してサービス向上に力を入れていきます。	開設2年未満のホームであるが、運営推進会議は行われていない。今後は定期的開催する予定であり、4月の実施に向け準備を行っている。	参加者には運営推進会議の意義を説明するとともに、ホームの運営や自己評価、外部評価についても報告し話し合い、出た意見をサービスの質向上に繋げることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長交代の際に、市の高齢者支援課や、生活福祉課と、ホームの実情を話し、今後も良い協力関係が築けるよう取り組んでいきます。	役所の高齢者福祉課とは連絡を密にしている。また、生活福祉課の職員が定期的にホームを訪ねて来る。今後はグループホーム連絡会への入会や生活相談員の受け入れなども考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、職員会議において、事例をあげ、職員に周知していただき、安易な身体拘束とならないよう取り組んでいきます。	研修では身体や言葉による拘束について事例をあげ職員の意識統一を図るよう努めている。玄関は日中施錠せず、自由に出入りができる。また、ユニットによってはドアに鈴を付けて、出入りが分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ネグレスト・過剰な見守り・言葉による虐待等を職員会議で事例を上げ、事業所内での虐待が起きないように、職員全員で注意を払っていきます。		

【調査機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在高齢者支援課の協力の下、後見人制度を利用する利用者の方がいる為、話し合いの中で、学ばせていただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際には、必ず、十分な説明を行い、不安点や、疑問に対して、お答えし、納得していただいた上で、契約して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々のご家族には、訪問に時にご意見を聞かれていたようですが、今後は運営推進会議を通して、それらを運営に反映させていきます。	家族の面会は頻繁にあり、来訪時に意見や要望を聴くようにしている。家族から管理者に面談の申し入れがあったりする。また、近く開催予定の運営推進会議で出た意見、要望を運営に活かそうとしている。	家族の来訪時や今後の運営推進会議では積極的に声かけを行い、気軽に意見や要望が言える雰囲気作りと、出された意見をホームの運営に反映させることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットミーティング・全体職員会議等を開催し、提案や意見を聞き、反映しています。	職員は朝の申し送り時やユニット会議及び全体会議で、提案や意見を言う機会がある。また、新しい管理者が着任したこともあり、近く個人面談も予定されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度、給与規定の改正があり、より向上心に繋がるように、分かりやすくなりました。賞与の時期には、自己評価・面談・上長の評価により、職員の努力が賞与に反映されるようになっていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度から、内部研修の充実化に向けて、会社全体で、取り組みを始めました。働きながらトレーニングできるような体制となってきました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会に関しては、今後の課題ですが、他の介護業界からの転職者もいる為、サービス向上の意味で、意見交換しています。		

【調査機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受けた際に、ご本人様から要望をお聞きし、安心確保するための、関係作りをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談を受けた際に、ご家族様から要望をお聞きし、安心確保するための、関係作りをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントを通して、ニーズを把握し、支援方法を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物をたたんだり、食器を拭いていただいたり、暮らしをともにする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間、外泊、外出、電話受付時間や期間の定めは特につくらない事で、家族の絆が途切れないよう、また共に支えていく関係を築くようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様、ご家族様から、制限の要望がない限り、上記と同様です。	ホームは家族の面会や電話の取り次など時間を制限せず、支援している。また、外泊の支援も行っており、訪問調査当日も一人の入居者が自宅に帰り、留守であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流はレクリエーション活動を通して、深め、共に支えあえるように配慮しています。		

【調査機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その方の状態にもよりますが、必要に応じて、相談、支援ができるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスを通し、希望や意向を反映したケアプランの作成に努めています。	通院介助時や昼食の時にコミュニケーションを取る中で、把握するようにしている。表出が困難な場合には家族から情報を得たりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時、また初回アセスメントを通し、その際に把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンスを通し把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやモニタリングの中で浮き彫りとなった課題をケアカンファレンスにて現状に即したケアプランの作成に努めます。	介護計画作成にあたっては、本人や家族の意向をもとに往診医や訪問看護師の意見も聞いている。その上でカンファレンスで話し合いをして、作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の毎日の記録、業務報告、申し送り等で情報を共有して、ケアプランの見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り、柔軟な対応を心がけています。		

【調査機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の訪問看護ステーションとの医療連携にて、心身の状態を把握し、安全で豊かな生活ができるように情報交換することで、支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回提携病院の往診がありますが、なじみの医療機関に継続通院の要望がある場合は、できる限り支援しています。	提携病院の往診があるが、眼科や精神科のかかりつけ医には管理者が同行して通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護ステーションの訪問時に利用者の状態を報告し、適切な受診、看護が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院のソーシャルワーカーと相談して、状況を把握し、早期退院ができるように、関係を築いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期におけるケアについて説明し、同意書を書いていただいています。	「重度化した場合における対応の指針」があり、入居時に説明している。まだ看取りの経験はないが、その都度家族や関係者と話し合っていくことにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護ステーションとの連携の中で、勉強会が出来ればと考えています。今後の課題です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の実施、また運営推進会議の議題として、地域の協力ができるように支援していきます。	町内会の防災訓練に参加している。また、管理者が変わったことで、これまでやや不定期であった避難訓練を定期的に変更予定である。法人のネットワークを生かしての情報共有、近隣農家の協力による食糧提供も確保できると思われる。	

【調査機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	過剰な見守り、ケア上位の声かけ等を、全員で注意することで、日々気をつけるように、心がけています。	会議の場で、職員同士で話し合っている。言葉かけについても気がつけば、管理者が注意している。また、個人情報については、鍵のかかるところに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類を選ぶ、居室で休みたい等、希望や自己決定ができるように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、希望に添えるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症を患っている方なので、時にはちぐはぐな身だしなみになってしまう場合があるので、おしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出きる方には、負担とならない程度にお手伝いをしていただいています。	メニューはそれぞれのユニットで考えているので、入居者の好みにも対応できている。職員も一緒に会話しながら、テーブルを囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日健康チェック表を個別に記録しているので、水分量、食事量の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の食後の口腔ケアを実施すると共に、訪問歯科により、口腔内のケアも行っています。		

【調査機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り、オムツではなく、トイレで排尿ができるように支援しています。	職員はチェック表等を活用しながら、積極的に自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた取り組みができるように、時には訪問看護や往診医と相談しながら取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の定めは特に定めず、個々に沿った入浴ができるように配慮しています。	希望や状況に応じて、対応するようにしている。入浴拒否の人についても、声かけを工夫して入ってもらえるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調を把握し、休息を促したり、要望がある場合は、休んで頂く等、生活習慣を尊重しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	アイセイ薬局がグループ会社でもあり、用法などのアドバイスを受けています。それに基づき、服薬管理や、介助を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌ったり、楽しみごとをレクリエーションに取り入れたり、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年10月にディズニーランド外出レクを行い、その際には地域のボランティアさんの協力を得て、成功しました。	気候の良い時期にはよく散歩に出ている。また、ある入居者が「ディズニーランドに行きたい」と言ったことから、ディズニーランドへの外出を企画し実現した。	

【調査機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いに関しては、事務所保管となっておりますが、その方が買物を望む場合は、できる限り同行し、買物ができるように支援していきたいと思っています。今後の課題です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの制約がない限り、自由にやり取りができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季にあった、お花を置くなど、ホーム内においても、季節感が味わえるように配慮しています。	職員がこまめにカーテンで光の調整をしている場面が見られた。共用空間は明るく清潔だが、新しいホームなのでやや家庭的な雰囲気には欠ける。	ユニットによっては生花が活けてあったが、全般的に、もう少し家庭的な雰囲気があると良いと思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内は基本的に自由に行動できるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り、昔から使い慣れたものをご用意していただくように配慮しています。	居室によっては馴染みのものを沢山持ちこんでいる人もいるが、全般としてさっぱりとした印象である。	ホームは家庭の延長ともいえるので、家族にも根気よく話をして、入居者が安心して居心地よく過ごせるような居室作りが期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーである事と、居室に名前を張って、迷わないような工夫をしています。		

【調査機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所